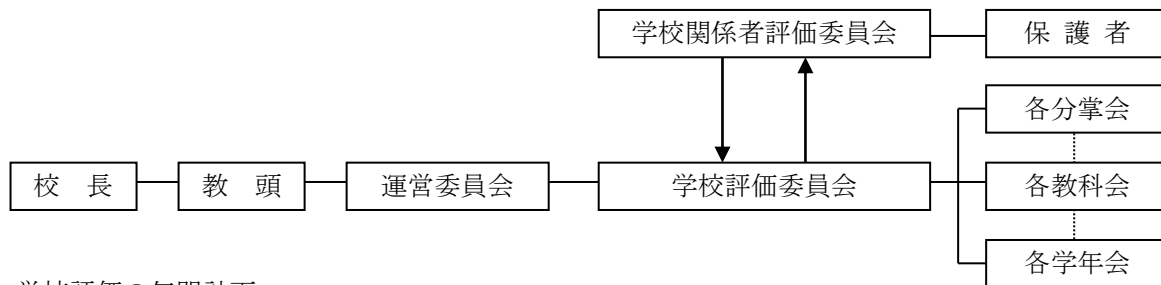


8 学校評価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

4月 PLAN (計画)	課題・重点目標の設定 ・ 分掌別取組課題の検討 ・ 具体的方策 ・ 留意事項 情報受発信の検討	学校評価委員会で検討 運営委員会・職員会議で報告 PTA 総会で概要説明 学校ホームページに「重点目標」掲載 学校評議員への提示 地域の中学校への訪問・説明
通年 DO (実践) 9月 CHECK (評価)	中間評価の実施 ・ 取組状況の確認 ・ 改善点の検討 中間評価のまとめ ・ 評価結果と課題	学校評価委員会でまとめ 運営委員会・職員会議で報告 PTA 委員への概要説明 学校ホームページに「中間評価」掲載
3月 ACTION (改善)	年度末評価の実施 ・ 評価結果と課題 ・ 教育内容・活動の改善 次年度の重点目標の検討	学校評価委員会でまとめ 学校関係者評価委員会の開催 運営委員会・職員会議で報告 PTA 委員への概要説明 学校ホームページに「年度末評価」掲載

(3) 本年度の学校評価

本年度の 重点目標	心身ともに健康で「やり抜く力」をそなえた生徒の育成 ～「夢に向かって全員が主人公、希望がかなう津島北高校」の具現化 ・ 生徒の生活習慣、学習習慣を確立 ・ 特別な支援を必要とする生徒の実態に合わせた適応指導と、複数での情報共有と複数での適切な対応 ・ 新学習指導要領への対応、カリキュラム・マネジメント ・ 様々な学校行事における、生徒主体の計画と活動の実践 ・ 総合ビジネス科・普通科の併置校のメリットを生かした学校教育の実践		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務	・ 保護者の学校行事及びPTA活動への積極的な参加促進 ・ 広報活動内容の充実と積極的な更新	・ 役員、常任委員との連携を密にし、一般保護者への行事内容の周知徹底を図り、参加者増を目指す。 ・ 文化祭でのPTA企画等、新たな活動機会の場を模索する。 ・ 多くの教員の協力の下、HPの更新頻度を高め、「壁新聞」、「学校案内」と合わせて学校の現状、魅力を発信し続ける。	・ 各種行事の情報を早期より幅広く流し、役員、常任委員のみに偏らない参加を促す。「研修旅行」への参加者を更に増加させるために、役員によるPR活動の機会を設ける。 ・ システム変更に伴うHP更新の遅滞を解消させるため、更新方法の見直しを図り、内容を見直す。 ・ 「学校案内」の刷新を図り、「壁新聞」とともに、紙媒体での魅力発信にも努める。

<p>教務 図書文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間の確保 ・観点別評価研究の実践 ・蔵書利用の促進 読書会、文化祭への一般生徒参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選や、効果的、効率的な授業展開を検討し、実践する。 ・学力定着の基礎となるように、課題の提示についても工夫する。 ・新カリキュラムの指導内容に即して3観点による評価を研究する。 ・評価結果のフィードバックの方法を検討する。 ・朝読の実施に伴い学年との連携を図る。 ・図書文化委員を通じた広報と宣伝。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が総合的な学力を身に付けられる指導内容を精選する。 ・生徒の健康や心理面にも配慮した課題の提示を工夫する。 ・主体的、対話的で深い学びを評価できる方法を検討・実践する。 ・通知表の書式や、記述内容について検討する。 ・貸し出し数を前年度と比較し検証する。 ・一般生徒の参加数統計の前年度との比較し検証する。
<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者減少の促進 ・いじめ防止及び未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度（令和元年度）の遅刻数を生徒に伝え、意識させる。 ・自家用車による送迎が増加しているため、生活習慣を確立し自分自身で登下校するよう促す。 ・生徒との面接やいじめアンケートの実施、生徒相談箱の設置などを通して、いじめの早期発見に努め、適切に対応する。また、学年会、学年主任会、教育相談委員会等と連携し、情報の共有化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻数の統計で昨年度と比較する。 ・自転車や公共交通機関を使用し登下校している生徒の増加を促す。 ・いじめの認知数による評価。 ・いじめに係る情報（いじめが疑われる情報や人間関係に関する悩み）があった場合は情報の迅速な共有を図る。
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の新大学入学選抜方法に対する知識・理解の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学の説明会に参加し、得られた情報を報告用紙にまとめ、配付する。 ・各研究会に参加し、得られた情報を報告用紙にまとめ、配付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会、研究会への参加率により検証する。
<p>保健厚生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDへの理解度向上 ・受診勧告報告書の提出率向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・AED講習会の運営、実施をし、研究の成果を文化祭で発表する。また、保健だよりの作成をおこない積極的な発信をする。 ・提出がされるまで3回にわけ受診勧告書を配付するとともに、個別の保健指導の充実や保健だよりによる啓発を行い、健康に対するさらなる意識の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動代表者・保健委員約80名に対し、AED講習会の事前と事後のアンケートを丁寧におこない、きめ細かな分析をおこなう。 ・保護者会で直接保護者へ受診勧告を渡す。その後、2回目、3回目と受診勧告書を配布。保健だよりに活用して健康に関心を持たせる。
<p>生徒会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じての評議員の主体的行事運営の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種生徒会行事における評議員の役割を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は体育的行事での評議員の主体的な参画は達成できたが、今年度は体育的行事以外の主な生徒会行事において評議員の役割が分担されているかを検証する。

第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶及び、基本的生活習慣の確立 ・学習習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般において、挨拶を励行させる。学年集会・HR・個人面談などを通して、授業や部活動に意欲的に取り組むように働き掛ける。より良い人間関係構築のために行事や授業において他人を思いやる心を形成できるよう働き掛ける。 ・課題の有無に関わらず家庭学習が定着するよう働き掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や出欠の状況で検証する。 ・家庭学習時間調査を行い、家庭学習時間を目安として評価する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の明確化資格取得や模擬試験に対する意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や進路検討会を充実させ、学年団で情報を共有し、生徒に対する指導の充実を図る。 ・生徒面談の充実を図る。 ・検定補習に対する取組意識の向上を図る。 ・模擬試験の事前事後指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の状況や模擬試験の結果、進路希望調査などを総合的に判断し、評価する。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の適性及び希望に対応した進路希望の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と学年・教科・担任の連携を図る。 ・希望進路実現までの段階的目標の設定を図る。 ・学習記録を活用した家庭学習の充実を図る。 ・担任や進路担当者と生徒の個別相談の充実と適切な進路情報の提供を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一志望へのこだわりを学習意欲に繋げるよう指導する。 ・就職希望者の企業研究・面接練習を充実させる。 ・学習記録の内容について適宜助言し目標到達に必要な改善を促す。 ・定期的な面談を通して進路情報を提供し、生徒の意識の高揚を図る。
教職員の健康障害防止	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善の推進と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善に係るワーキンググループにおける改善策の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループで提案された改善策を実行に移す。
勤務時間管理	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員勤務時間の短縮 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日の適切な設定と順守を促す。 ・チームによる効率的な業務の遂行を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各月の定時退校日の意義と意識の徹底を図る。 ・タイムマネジメントの意識啓発を図り、職員がアイデアを創出しやすい環境をつくる。 ・良好な職員間の関係づくりに留意する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<p>心身ともに健康で「やり抜く力」をそなえた生徒の育成 ～「夢に向かって全員が主人公、希望がかなう津島北高校」の具現化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校行事やPTA活動への保護者の積極的な参加 2 各部活動への積極的な取組とその成果 3 授業改善の進捗、地域貢献の状況 4 進路指導体制の確立とその成果 5 一人一人の良いところを認め、伸ばす指導の実践 6 生徒の「豊かな心」を育む教育の推進 7 キャリア教育の推進とその成果 8 教職員の勤務時間の適正管理と健康障害防止 		

(4) 前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

<p>前年度の 重点目標</p>	<p>心身ともに健康で「やり抜く力」をそなえた生徒の育成 ～「夢に向かって全員が主人公、希望がかなう津島北高校」の具現化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生活習慣、学習習慣を確立 ・様々な支援を必要とする生徒の実態に合わせた適応指導 ・生徒の希望する進路の実現に向けた進路指導の充実 ・部活動や生徒会活動、学校行事への生徒の積極的・主体的な参加と取組 ・時代に対応した新しい商業教育の実践と成果の地域還元 ・教職員の多忙化解消 		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>総務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の学校行事及びP T A活動への積極的な参加の促進 ・対外的広報活動の充実 ・防災意識の涵養 	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A役員、常任委員の協力を得ながら、保護者に適切な案内を行い、行事内容の周知徹底を図る。 ・H Pの随時更新、「学校案内」の刷新、「壁新聞」の時期を逃さぬ発行を図る。 ・県教委等主催の「高校生防災セミナー」への参加をきっかけとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員、常任委員の協力により、P T A行事内容の周知が一層図られ、参加者が増加したが、活動の幅を広げる余地は残る。 ・「壁新聞」は時期を逃さず、号外を含め発行頻度を高めることができたが、システム変更に伴うH Pの更新遅滞の解消が課題である。 ・参加生徒の協力により、成果発表の代表校に選出された。来年度も引き続き活動の充実を図り、成果の発信に努めたい。
<p>教務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力に応じた学習支援の検討 ・校務支援システムの拡充 ・カリキュラムの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振者への効果的な学習支援を進路指導部や学年と協力し実施する。 ・新成績処理システムを旧システムと並行運用し、成果物を検証する。 ・本校の実情に基づいたカリキュラム案を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振者指導を学年の教務担当が中心となり、学年の協力を得ながら実施することができた。 ・定期考査の成績処理を利用して新システムの運用テストを実施することができ、旧システムと同等の成果物を確認することができた。ただし、課題考査と調査書のシステム作成については次年度での課題となった。 ・カリキュラムについては各教科での検討を実施した。全体の調整は次年度に実施したい。

<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全活動の充実 ・身だしなみ指導の充実 ・いじめの未然防止に係る取組の充実 ・いじめの早期発見と、適切な事案対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の立ち番を職員全体で負担し、多忙化解消を図る。 ・学校全体や学年全体で身だしなみ指導を実施できる時間を確保する。 ・集会や HR 等において、いじめ防止をテーマとした講話や活動を実施し、生徒が主体的に考える機会を設ける。 ・生徒との面接やいじめアンケートの実施、生徒相談箱の設置などを通して、いじめの早期発見に努め、適切に対応する。また、学年会、学年主任会、教育相談委員会等と連携し、情報の共有化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安全を確保するため、立ち番での注意点などを職員間で共有できるように働き掛けた。送迎による登下校が増え、危険な状態だと感じているため、対策を考えたい。 ・他行事との絡みで思うように時間が確保できていない状態であった。 ・集会や講話等で人権について考える機会を設け、生徒に人権侵害について考察させる機会を設けた。また、SNS の適切な使用など、情報モラルについて OR 合宿等で考えさせた。 ・いじめアンケートに記入されていた内容に対して担任、学年指導部で早急に対応できていた。いじめアンケートに記入されていない内容については、担任や保健厚生部と連携し適切に対応したい。学校全体が明るくなるよう挨拶を推奨したい。
<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的・計画的な進路指導 ・キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の分掌・教科・学年との連携と協力を図り、進路検討会、模試分析会、スタディサポート分析会の結果を学習指導、生徒指導に反映させる。また、早期に目標を持たせ、学習の量や質を高めさせる指導をする。 ・職場体験や進路相談の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会には呼び掛けの効果により参加していただいた教職員が大幅に増えた。生徒一人一人の検討資料を用意でき、多くの質問や意見を頂戴した。現状把握とともに今後の指導の改善に活かされた。また、多くの生徒が目標校を設定できたが、安易な選択をしている生徒が見られるのも否めない。改善の結果が成績に結びつくには時間がかかるが、常に効果的な指導を模索し、実践していきたい。
<p>保健厚生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理に対する意識の向上 ・環境美化に対する意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒保健委員会の活動のさらなる充実化を図る。 ・生徒美化委員会の活動のさらなる充実化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の活動を踏まえ、より効果的に、健康意識・環境意識の向上を図る活動を行っていききたい。 各学年の相談係と連携を密にして、全教員への情報の共有化及び生徒への対応を行うことができた。引き続き、組織的な支援を目指した教育相談体制の整備を行っていききたい。 令和2年度以降、ミストシャワー増設を含めてさらなる熱中症対策を実施する。
<p>図書文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学習基礎力としての読解力育成 想像力・言語能力を高め、文化行事にも反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読（前期・後期）の全校的取組の円滑化と1年朝読を積極的に取り組ませる。 ・図書文化行事の活性化と質的改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年朝読は好評で、来年度は1年に加えて、2年朝読の定例化と時間増も期待される。 ・文化行事は生徒中心の主体性が発揮されてきたので、来年度は一般生徒の参加をより促していききたい。

生徒会	評議員の主体性と責任感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会を充実させる。 ・常任委員を割り振り、各種行事における評議員の役割を活性化させる。 	球技大会、学校祭においては評議員の主体的な行事運営が行われてきたが、その他の行事においても評議員が携わる機会を充実させたい。
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶及び基本的な生活習慣の確立 ・豊かな心の育成 ・家庭学習習慣の確立 ・キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般において、挨拶を励行させる。学年集会・HR・個人面談などを通して、授業や部活動に意欲的に取り組むよう働き掛ける。より良い人間関係のために行事や授業において他人を思いやる心を形成できるよう働き掛ける。 ・課題の有無に関わらず家庭学習が定着するよう働き掛ける。 ・自分の興味・関心や価値観、意思決定スタイルを知り、将来の職業像をイメージさせることによって、進路目標の設定に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習においては、まだまだ不十分であると感じているため、粘り強く指導したい。学校生活のいろんな場面で短絡的かつ安易に物事を考える場面が見られ、個別指導の必要性を感じている。 ・キャリア教育を通じ、仕事に対する責任感や社会貢献、進路実現について考察する機会となった。未来に向けて高校生として今、自分自身がどうあるべきかを具体化させることが必要となる。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の向上及び進路希望先の決定 ・総合ビジネス科の各科目に応じた高度な資格取得及び普通科の学力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講話・授業、補習などさまざまな活動を通して進路を考える機会をもたせ、進路希望を定め、目標とする進路を実現するための方策を考えさせる。 ・総合ビジネス科では各科目の授業内容に応じた資格取得を目指し、補習等を有効に活用して計画的に学習に取り組ませる。また、普通科においては学力向上をめざし、家庭学習を充実させ、補習や朝学習等を有効活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得に向けた意識は高まってきており、合格率も前年度に比べて上昇したが、内容が難しくなってきたことからさらに意欲を高めていく必要がある。 ・模擬試験では上位層は伸びてきているが、まだまだ下位層の底上げが必要な状況である。補習を習熟別に行い、基礎の復習を必要な生徒に行っていく。 ・入試改革初年度の学年なので、各大学の受験制度をさらに研究し、3年次の指導に役立てていきたい。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の進路希望の達成 ・大学・短大・専門学校などの合格率の向上 企業・公務員などの合格率アップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と学年・教科・担任の連携を図り、学習環境を整える。 ・センター入試を目標に、さまざまな入試方法を利用させる。 ・補習や学習会の利用を促し、実力を付けさせる。 ・校外学習会・センター直前模試を充実させる。 ・企業研究や就職試験に向けての心構えやマナー指導、面接練習を充実させる。 ・基礎学力の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職は希望者全員が無事採用内定した。進学希望者は、よく健闘した一方で、中堅校で苦戦を強いられた。一般入試では後期試験まで取り組み、第一希望の合格をつかんだ者もいたことは大きな成果であった。 ・総合ビジネス科においては、大学入試の総合型選抜に向けた対策として、従来の評価項目に加え、各種研究成果の発表など生徒の主体的な活動を促し、授業とリンクさせながら十分な指導と準備が必要となる。 ・普通科には共通テストとその後の私立大学、国公立大学の二次に向けた確実な力をつける継続的な指導も求められる。低学年次から進学意識を高め、3年次では具体的で迅速な取組を行っていく必要がある。

・教職員の健康障害防止	・教職員の健康障害防止	・在校時間等の状況記録の集計結果を安全衛生委員会で報告・確認して情報を共有する。	・個人の経年比較では、昨年度より従事時間が短縮しているのは50%をやや上回るのみにとどまっている。 ・業務の偏りとチームでの効果的な取組について、改善を図りたい。
・勤務時間管理	・業務の適正化	・タイムマネジメントの啓発を図り、教職員の持続的な勤務時間短縮を目指す。	・定時退校日月2回以上の設定や、声掛けにより、平均従事時間は短縮されているが、効率的なチームでの取組については課題点が散見される。更なる啓発活動の必要性を感じる。
総合評価		<p>校内のいたるところで日々、挨拶が交わされ、爽やかな校風が維持されている。部活動への積極的な参加、全国大会出場などの良い雰囲気の中で教育活動を進めることができている。</p> <p>総合ビジネス科においては、資格取得に力を入れ、実績を伸ばすことができた。さらに、取得した資格を進学・就職に生かすことができるよう、体制の充実を図っている。学科の特色を生かした教育活動にも積極的に取り組んでいる。オンラインショッピングモール「まなびや愛知」を通じて生徒の学力・スキルを伸ばすとともに、地域への貢献についての取組の実践をさらに前進させたい。</p> <p>普通科においては、進学指導體制の整備も進み、進路目標の達成に向けて最後までチャレンジを続ける姿勢が育っていることも、令和元年度の実績から垣間見られる。</p>	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<p>心身ともに健康で「やり抜く力」をそなえた生徒の育成 ～「夢に向かって全員が主人公、希望がかなう津島北高校」の具現化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校行事やPTA活動への保護者の積極的な参加 2 各部活動への積極的な取組とその成果 3 公開授業や授業改善、ボランティア活動等での地域貢献 4 進路指導體制の確立とその成果 5 一人一人の良いところを認め、伸ばす指導の実践 6 生徒の「豊かな心」を育む教育の推進 7 キャリア教育の推進とその成果
自己評価結果について	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種行事に対して、多くの保護者の参加・協力が得られている。 2 分掌・学年・教科が連携し、生徒の学習に向かう姿勢の改善・向上を図っている。「学習・生活満足度アンケート」によると、大半の生徒が授業に真剣に取り組んでいる。 3 校務支援システムの運用に着手できた。ペーパーレスの会議運営にも着手できた。安定的運用を目指したい。学年や教科との連携を図り、的確な学習指導が実践できた。 4 進路指導において、進路検討会の改善を図り、情報共有の環境を整備した。協力体制の下で進路実現の実績が向上した。 5 保健厚生や図書文化等の関連行事、学校祭・球技大会等の生徒会活動においては毎年、生徒の熱心な取組が見られている。運営の主体性をさらに追及したい。 6 職場体験などキャリア教育の充実を図った。「総合的な探究の時間」を活用し、効果的な取組について検討を継続する体制が整備された。

今後の改善方策について	<ol style="list-style-type: none"> 1 「学校案内」の刷新、ホームページの一層の充実を図り、本校の魅力を的確に発信し、関心や理解を高めるよう努める。また、保護者の行事参加が一層増えるよう案内の充実、周知を図る。 2 不断の授業改善に取組み、主体的・対話的で深い学びの実践と、評価方法について研究を進める。 3 生徒の活動全般において、主体性を育む取組の工夫を検討する。 4 総合ビジネス科においては、進学希望者の意識の向上と学力の伸長を目指す。普通科においては生徒の学習意欲を高め、挑戦する姿勢を醸成する。 5 各分野の情報を共有し、迅速・的確な指導に生かす。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒たちが授業に対して真剣に向き合っている。挨拶も爽やかである。授業も雰囲気良く、教員と生徒の間に温かい人間関係を感じ取ることができ、これまでの指導の賜物であることが実感できる。 2 地域で行われている各種行事への参加・貢献活動は地域から良い評価を得ている。地域の好感とともに、生徒の成長に寄与する結果となっている。 3 生徒の主体性の育成にさらなる工夫を施し、学校の良さを積極的かつ的確に発信してもらいたい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校関係者評価委員 市教育長 同窓会長 P T A会長 P T A副会長 2 評価時期 9月・3月の2回

(5) 経営管理上の問題点等

- ア 産業界の求める即戦力となる人材育成のために、時代の変化に対応した更なる施設・設備の充実が望まれる。
- イ 教育活動充実のために、プールやグラウンドの改修が望まれる。特にグラウンドは、少々の雨水でひどくぬかるみ、水はけが悪いため授業や行事、部活動での使用に支障をきたすことが頻繁である。
- ウ 家庭科室の設備・備品の充実が望まれる。
- エ 部活動の活性化を図るため、特に冬場の練習確保のための照明施設の充実が望まれる。
- オ 教職員一人一人の業務負担が増している現状において、行事の精選とともに教職員組織の協働体制の確立・工夫が必要である。